

第147回定時株主総会 質疑応答要旨

当資料は、2025年6月10日（火）に開催した当社第147回定時株主総会において、株主の皆様から事前および当日にいただいた主なご質問と、その回答を要約したものです。

【当社株式の公開買付け予定、及び非公開化について】

- Q1. 公開買付けの開始時期について、具体的なスケジュールは。公開買付けに応募する際に株主が行うべき必要な手続きについても教えてほしい。
- A1. トヨタ不動産によれば、競争法上の審査などの完了後、2025年12月上旬を目途に公開買付けを開始することを目指しているとのこと。株主様には、公開買付けが開始される際にご案内がされますので、その内容に沿って手続きを行っていただきます。それ以前に株主様で行っていただく手続きはございません。
- Q2. 公開買付価格16,300円は妥当なのか。その根拠や価格の算定方法におけるプロセスは。少数株主への配慮についての考え方は。
- A2. まず価格の公正性を確保するため、トヨタ不動産、トヨタ自動車、当社のいずれからも独立した、独立社外取締役3名で構成する特別委員会を組成し、取引の目的の正当性や合理性、手続き・条件の公正性や妥当性、少数株主にとって不利益ではないか等について審議を重ね、その答申も踏まえ、妥当であると取締役会として判断いたしました。
- 公開買付価格について、当社および特別委員会がそれぞれに独立したファイナンシャル・アドバイザー兼第三者算定機関を任命し、当社の事業計画をもとにした当社株式の価値算定を行いました。今回の16,300円は、これらの外部専門家による各種算定手法の算定結果の範囲内であり、とりわけ、会社の本源的価値を表す算定手法として一般的なディスカウント・キャッシュ・フロー法による算定結果の範囲にも収まっています。4月25日に、当社発表ではない情報による憶測報道がなされ、それ以降当社の株価が上昇しましたが、当該憶測報道直前、当該憶測報道前1か月平均、同3か月平均の株価と比較しても、一定のプレミアムが付与されています。
- 一方で、6月3日の公表日前日の当社株式の市場価格と比較して一定のディスカウントとなる金額であることを踏まえ、当社は、株主の皆様が公開買付けに応募されるかどうかは、株主様のご判断に委ねる、中立の立場としております。

Q3. 中間期の配当を行わない理由は。

A3. 中間期を含め今期の配当は行わないことが、今回発表された公開買付けの枠組み、価格の前提となっているためです。

Q4. 今回の非公開化を通じてトヨタ自動車や創業家の影響力が増大するのではないか。

A4. トヨタ不動産はグループ各社が出資している会社であり、トヨタグループがオーナーとなる位置づけです。トヨタ自動車との関係もこれまでと変わりはなく、創業家が影響力を強めることもございません。これまで以上に中長期的な視点で共に取組みを進めてまいります。

Q5. エンジン認証問題に、自社で対応がしきれずに非公開化につながったのではないか。

A5. 今回の非公開化はエンジン認証問題とは関係はありません。当社は以前から資本政策をはじめ、今後のグループの姿を議論・検討してまいりました。そうした中から今回の非公開化の選択に至っております。エンジン認証問題については、再発防止に向けた3つの改革に従業員とともに時間をかけて取組んでおり、継続してしっかりと取組んでまいります。

Q6. 非公開化後、再上場の可能性があるのか。そうした議論を行ったか。

A6. これまでの議論、検討のなかでは、再上场についてのものはございません。これまでの歴史を振り返り、未来への問いかけを続け、次の100年に向けて、当社の力強い姿をお見せしていくことに注力していきます。

Q7. 非公開化されると、情報開示や、社会とのつながりが減ることを懸念する。どのように対応するのか。

A7. 企業として、「公共の器」であることに変わりはなく、非公開化される場合でも、事業の取り組みや会社の状況をしっかりと広くお伝えし、お客様・仕入先様・販売店様および地域の皆様との様々なつながりもこれまでと同様に重視し、企業運営を進めていきます。

【フォークリフト、物流ソリューション事業について】

Q8. フォークリフト、物流ソリューション事業での、今後の海外展開の考えは。

A8. 欧米を中心に、アジアにも展開しております。今後、欧米に限らず、ビジネスチャンスは世界にあると認識しており、各地域で働く仲間と共に、多くの地域、世界の産業に貢献できる取り組みを進めてまいります。

Q9. フォークリフトに他社製エンジンを搭載し、販売再開している理由は。

A9. エンジン認証問題では、お客様はじめ多くの皆様にご迷惑をおかけしており、申し訳ございません。販売再開にあたり、少しでも早くお客様にお届けするために他社製エンジンの搭載を決めております。当社製エンジンを使わないと決めたわけではなく、お客様へのご迷惑を少しでも早く解消することを一義に進めてまいります。

【工場でのロボット活用、DXへの取り組みについて】

Q10. 工場での人型ロボットの活用、DXへの取り組みは。

A10. 世界の最新工場の調査などを通じ、自動車分野においても人型ロボットの活用が始まっていることは承知しております。

現在でも、産業用ロボットは多く活用しておりますが、労働人口減少していくなか、先進の生産技術開発を引き続き進め、人型ロボットも含め、あらゆる選択肢を活用していきます。

以上